

「パンフレティア」の内容

——イギリス産業革命期の研究文献——

高 垣 寅 次 郎

十九世紀初頭のイギリスは、まさに産業革命進行のさなかにあり、政治・経済・社会・文化のあらゆる面において、革新の気運が漲りおこり、諸制度は躍進を遂げていた。世界におけるイギリスの優越の地位は実にこの時代に築かれた。その間に現われた諸問題をめぐって、論争がしきりに行われたが、それは書簡の往復、政府若しくは高官に対する建言書、議会における演述等の形式によって行われることが多く、そのために小冊子の刊行が盛んであった。いろいろの問題について、それはまさにパンフレットの戦いといわれる状態を現出した。

パンフレットというのは通例、ある問題を論議するための紙綴ぢの簡素な小冊子を意味する。元来、一般に興味のある議論をこの形式で発表することは、十五、六世紀の頃には主として宗教上の論争に関して行われたもの

「パンフレティア」の内容

「パンフレティア」の内容

であったが、それはその頃、論争は多くは宗教のことに關して起つたからであろう。この方法は次第にその他の問題にまで及ぼされるようになった。十八世紀以後になつてからは、それは政治的論争の手段として、また宣伝の方法として広く用いられるようになった。イギリスではその頃、金融学説史上に著名な地金論争はもとよりのこと、インド問題、東方問題、アイルランド統治、穀物法、関稅改革など、すべてその当時ひろく世間を賑わした問題には、このパンフレットの形式による論争の氾濫をひき起したのであった。

一般的に言つてパンフレットは、論議の一面を強調することをつねとして、むしろ包括的であることを意圖していない。論述の全体としての釣合ひということよりは、一面的にその主張を強く現わすことを特徴とする。従つてそれだけにそれを讀むものには、一般の著書には見られないような尖鋭さに興味をもたせることが多い。イギリスの古書店のカタログに興味ふかく眼を通す人は、その頃の文献の中で、この種のパンフレットにつねに注意を払われるに違ひない。私もしばしばそれらに注意を向け、それらを手に入れて研究の資料にしたことであつた。

このような文献を多くはリプリントして、或いは時としてオリジナルのものを含め、一冊に纏めて刊行することがその頃行われた。それは「パンフレティア」(The Pamphleteer)という表題で、一八一三年三月から一八二八年一二月に至るまで、二九卷五八号にわたつて続けられたものである。最初の計画では、三号を以て一巻とするように書いてあつたが、事实上は二号を以て一巻とすることを続けた。また第七卷までは、毎年平均四、五号を出すといつてあつたのを、第八卷からは毎年四号ずつを發行することにした。それはすなわち、最初意圖しただけの頻度において、刊行することができなかつたことを意味することになる。各号は平均およそ二五〇頁

として、一〇篇ないし一二篇の冊子を収載している。

成城大学では昨年、この「パンフレティア」の第二五巻まで揃ったものを購入したが、私はそれを、甚だえがたいものを手に入れたこととして喜んだ。昨年一〇月ワシントンに行ったとき、コングレス・ライブラリイにその終巻までの完全なものがあるので、それによって同誌の全体にわたる内容目次を纏めることができた。ブリテッシュ・ミュージアムにもその揃ったものがある。ハアヴァド大学クレス・ライブラリイの図書目録には、その第一〇巻までに収容された経済に関する論文が掲げている。(Kress Library of Business and Economics Catalogue, 1777-1817, Boston, 1957, pp. 313-5.) これはこの目録が、一八一七年刊行のものまでを収容することを目的としているために、(ことさらに第一〇巻(一八一七年)までのものを、ここにとり上げたものと思われる。

この「パンフレティア」に収載されている論文は、極めて広い範囲にわたっていて、その内容のはなはだ多岐なことに驚かされる。すなわちこの二九巻に収めた冊子の数は、五百五十余編の多きに上ぼっている。その最終巻の末尾には二四頁にわたって、分類総目次が添えられている。何の断り書きもそえてはないが、このことから、この雑誌に締め括りをつけたい意図をもったものであることが察しられる。それを表にして示すと次ぎのようである。

Agriculture (農業)

二一

Biography (伝記)

一〇

Divinity (神学)

一八

「パンフレティア」の内容

「ペンフレティアフ」の内容

East India Affairs (東インド問題)	一四
Ecclesiastical (教会関係)	二四
Education (教育)	一八
Finance (財政)	四一
Fine Arts (美術)	三
Jurisprudence (法学)	三三
Literature (文学)	二六
Medical (医学関係)	一六
Military Affairs (軍事)	四
Miscellaneous (雜)	一〇六
Philosophy (哲学)	一二
Politics (政治)	一四九
Political Economy (經濟)	五三
Statistics (統計)	三
合計	五五一

その分類に従って、収容された文献をかぞえて見ると右のような数字がえられる。それによると、政治に関するものは、法学三三篇、東インド問題の一四篇をも加えると、合わせて一九六篇となって最も多い。経済とある

ものに財政の四一篇、農業の二一篇を合すると一一五篇となってそれに次ぐことになる。そのほかに、宗教・神学に関するもの四二篇、文学・哲学・美術に関するものが四一篇ある。正確ではないとしてもこれによって、大体にその当時、論争的興味の対象となつたことの分量的關係を察する、一つの目盛りと見ることができらう。同時にまた文学・美術等については、ここにとり上げられたものが比較的に少ないが、それは別に刊行物をもつていたが故に、自からそれに譲つたと見られるのである。

すべて或る事物の分類を試みることは、所詮それを試みるものの主観的な判断をはなれ得ない。また何れに属せしめるべきか、分類に困難を生ずるものもあるために、客観的な妥当性を求めることはできない。上記の分類された数字において、雑若しくはその他に属するものが数においては全体の五分の一にも近く、一〇六篇の多きを占めていることは、内容に従つて分類することの、いかに困難であるかを物語っていることになる。

この雑誌に収載された冊子の中には、すでに何らかの形式によって他に発表されたもの、議会における演述その他の復刊のものなどが多い。すなわち、それらの比較的一般に眼の届かないものを、このような形式のもとに集めて、読者の便宜をはかることを意図したものと思われる。しかしはじめからオリジナルのものとして、或いはこの雑誌のみによって発表されると称せられるものが一一七篇、この雑誌のみのために翻訳されたといわれるものが二三篇あることになっている。

しかしその中には、明かに誤りとして指摘することのできるものがある。例えば第一一巻に載せられた「流通貨幣の数量を増加する方法」(A method of increasing the quantity of circulating money. Now first published, 1817.)の如きがそれである。これはウヘヌマン(Ambrose Weston)の著述と推定されてあるが、これ

「パンフレティア」の内容

はずで、一七九八年に同様の推定をもって出版されたものがあり、またやや表題を変え、ウエスミンの著作として一七九九年に出されたものがある。また私蔵本には Ambrose Weston, Two letters, describing a method of increasing the quantity of circulating money: upon a new and solid principle. By the late Ambrose Weston, Esq., printed for private circulation in the year 1799, and now published from the author's corrected copy. With a short preface by the editor, pp. xii, 56, London, Taylor and Hessey, 1818 というものもある。このように明かな誤りのあることは、それが時として誤りを含むことを示す一例として、ここに指摘しておかねばならない。そのような類例がまだ他にもあるか否かを、私は逐一に精査してはいない。

この雑誌のはじめに、議会の両院に捧げる (Respectfully dedicated to Both Houses of Parliament) と記されていることは、その出版の意図のあるところを示唆するものと見られないではない。すなわち、議会人によってそれが読まれて、その知性の養分となり、政治的に善用されることを期待したのであろう。また事実上、議会は最も公平に開かれた論議の場であり、また最も水準の高い知性の示される舞台であった。政策的論議は理論と政治との関連においてとり上げられるべきである。それが象牙の塔での対象とされるようになったのは、イギリスではむしろ新しいことであった。経済政策 (Economic policy) というような言葉が、学問的課題として大学の講義や著書の題名にまでとり上げられるようになったのは、それほど古くことではない。

「パンフレティア」の出版者はエイ・セイ・ゼイ・ヴァルポイ (Abraham John Valpy, 1787-1854) であるが、その編集者が誰であるかは別に記されていない。前記の国会図書館やクレス・ライブラリーの目録には、彼を編集者としてある。これは彼の経歴や事業などから見て、異論のないことと思われる。

イギリスの人名辞典による「*Dictionary of National Biography, Oxford, 1917—, Vol. xx, pp. 84—5.*」
彼はリチャード・ヴァルビー (Richard Valpy, 1754—1836) の次男。父の主宰したグランマア・スクールを経
て、父と同じようにオックスフォードのヘムブローク・コレッジ (Pembroke College, Oxford) を出た。父は
五〇年の永きにわたって教育に身を捧げ、また学校長として深く人望をえていた。彼はこの父の影響をうけて、
学生時代から古典の編集や印刷に興味をもち、一八〇七年から三七年にわたって、多くの古典や雑誌の印刷出版
にたずさわった。

「パンフレティア」の出版もその中の主要なものの一つであったが、その外の主なものを挙げて見ると、一八
一〇年に「クラシカル・ジャーナル」 (Classical Journal) を始めて、それを一八二九年まで続けた。一八一九
年から三〇年までの間には、ジョージ・ダイヤア (George Dyer, 1755—1841) の編集のもとに、「一四一卷にわ
たる著名な「デルフィン・クラシックス」 (Delphin Classics) を刊行した。また一八二二年一月から二五年一
二月にわたり、「ミュージアム」 (Museum) と称する定期刊行物の援助者、印刷者、発行者となった。一八三
〇—四年には、「家庭古典文庫」 (Family Classical Library) として、ギリシヤ、ラテンの古典五二巻の英訳を
出した。一八三二—四年には「シエクスピヤの戯曲と詩」 (Plays and Poems of Shakspeare) 一五巻を刊行し
た。また一八三四年には「絵画および彫刻国立美術館」 (National Gallery of Painting and Sculpture) に
ての継続事業を始めたが、これは漸くその四冊が陽の目を見たにすぎなかった。

このように甚だ多方面の印刷出版の事業にたずさわるについては、有力な協力者があつたに違いないと思われ
るのであるが、そのことについては知るすべはない。一八三七年彼は五〇才のとき、もっていた印刷設備を売り

「パンフレティア」の内容

払い、書物および版權の多大の手持ちから離れて、隠退生活に入った。そのとき以来、彼が取締役または株主として興味をもってゐた、保険会社 (University Life Assurance Company) その他の企業に心をよせ、静かに余生を送つたのであつた。

上述のように、この時代は經濟、社会の諸問題が山と積まれたときである。この「パンフレティア」にはきわめて多方面の問題をとり扱つた冊子が収容されており、それらは当時の重要な問題を蔽うている。しかも多くの研究者にとっては、分割された個々の冊子に眼をとめられることはあつても、全巻を通じてどのような内容をもつものかに、注目される機会は今まではなはだ乏しかつたと思われる。従つてこの雜誌の内容目次を集録して文献探索のための便宜を供することは、当時の諸問題を研究する人びとに対し、きわめて貴重な資料を提供する所以であると考えられる。

これまで比較的、全体にわたつてその内容を知る機會の乏しかつたと思われるこれらの文献が、これから大いに利用されて、その当時のいろいろの問題の研究にあらたな光を投ずる機縁となることを、私は切に念願するのである。